

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和 8 年 1 月 1 日～令和 8 年 8 月30日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和 7 年数値は 1 月 1 日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 8 年	235	34	2	105	121	262
令 和 7 年	267	33	3	132	132	300
前 年 同 期 比	-32	1	-1	-27	-11	-38

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	35	14.9%	4	0	18	19	41
	後立山	76	32.3%	17	0	27	45	89
	その他	25	10.6%	2	0	15	10	27
計		136	57.9%	23	0	60	74	157
中央アルプス		18	7.7%	0	0	10	9	19
南アルプス		8	3.4%	1	1	4	2	8
八ヶ岳連峰		23	9.8%	5	0	9	11	25
その他の山岳		50	21.3%	5	1	22	25	53
計		235		34	2	105	121	262

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	63	26.8%	15	0	52	0	67
転 倒	46	19.6%	0	0	46	0	46
病 気	19	8.1%	7	0	0	12	19
道 迷 い	25	10.6%	0	0	0	35	35
落 石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪 崩	3	1.3%	2	0	1	0	3
落 雷	2	0.9%	0	0	2	0	2
疲労凍死傷	39	16.6%	3	0	0	40	43
不明・他	38	16.2%	7	2	4	34	47
計	235		34	2	105	121	262

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
1 9 歳以下	1	0	1	6	8	43 24.2%	0	0	1	3	4	23 27.4%	12	66 25.2%
2 0 代	2	0	5	16	23		0	0	1	5	6		29	
3 0 代	1	0	4	7	12		1	0	4	8	13		25	
4 0 代	4	0	11	11	26	64 36.0%	1	0	2	2	5	25 29.8%	31	89 34.0%
5 0 代	5	0	18	15	38		1	0	13	6	20		58	
6 0 代	11	1	13	19	44	71 39.9%	2	0	11	5	18	36 42.9%	62	107 40.8%
7 0 以上	5	1	11	10	27		0	0	10	8	18		45	
計	29	2	63	84	178		5	0	42	37	84		262	
比 率	67.9%						32.1%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（8/24～8/30）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
8月24日	御嶽山	女	79	負傷	転倒	2人パーティで剣が峰から田ノ原登山口へ向けて下山中、富士見石付近で、石につまずき、転倒、負傷
8月25日	中央アルプス 木曽駒ヶ岳	女	68	負傷	転倒	2人パーティで千畳敷から木曽駒ヶ岳へ向けて登山中、中岳付近で、スリップし、転倒、負傷
8月25日	北アルプス 鹿島槍ヶ岳	男	47	無事救出	疲労	単独で五竜岳から鹿島槍ヶ岳方面へ縦走中、鹿島槍ヶ岳吊り尾根付近で、疲労のため、行動不能
8月26日	ハケ岳連峰 横岳	女	36	負傷	滑落	2人パーティで大同心稜を登攀中、バランスを崩し、滑落、負傷
						上記現場写真
8月26日	中央アルプス 千畳敷	男	12	無事救出	疲労	5人パーティで中岳から下山中、八丁坂付近で、疲労のため、行動不能
8月26日	北アルプス 槍ヶ岳	女	65	無事救出	疲労	3人パーティで北鎌尾根を經由し槍ヶ岳へ向けて登山中、北鎌沢付近で、疲労のため、行動不能
8月27日	北アルプス 槍ヶ岳	男	43	負傷	落雷	3人パーティで北鎌尾根を經由し槍ヶ岳から下山中、山頂付近で、落雷を受け、負傷
8月28日	北アルプス 烏帽子岳	男	55	無事救出	その他	単独で烏帽子岳から七倉登山口へ向けて下山中、濁沢付近で、増水の影響により、行動不能
8月28日	北アルプス 烏帽子岳	女	57	無事救出	その他	4人パーティで烏帽子岳から七倉登山口へ向けて下山中、濁沢付近で、増水の影響により、行動不能
8月28日	中央アルプス 木曽駒ヶ岳	男	53	負傷	転倒	単独で木曽駒ヶ岳から下山中、スリップし、転倒、負傷

先週県内では、10件の山岳遭難が発生し、滑落や転倒による遭難、疲労による行動不能遭難が相次ぎました。また、秋雨前線の停滞に伴う降雨の影響で、沢の増水による行動不能や落雷（槍ヶ岳）による遭難も発生しました。

北アルプス周辺では、登山口へ繋がる道路に雨量規制が掛かり、また、増水で登山道の橋が流されるなど、各地で影響がありましたが、振り返ると、山岳域での悪天候時のリスクや、登山行動の抑制等について、改めて注意しなければならないと考えさせられる事例でした。

信州の山岳域では、日中の熱中症リスクと、朝晩や雨天時の凍える寒さが同居する「寒暖差のある秋山」へと季節が移り変わっています。

日中は気温が上昇するため、夏山と同様に、休憩やこまめな水分補給を意識し、脱水、疲労（バテ）に注意が必要です。また、悪天候時は、冷たい雨と強風に体が晒されることで、急激に体温が奪われ「低体温症」を誘発する可能性があります。適切なレイヤリングを徹底し、防寒具やビバークセット（ツェルト等）を必ず携行しましょう。

悪天候時、「せっかく来たから」という登山への執着は捨てましょう。入念な登山計画・体力調整を行い、もしも当日、天候がダメなら、別プラン（低山登山等）への切り替えを行いましょう。安全な登山のために、冷静かつ慎重な判断が重要です。